



TITLE:

計画10-5 白神山地暗門川流域のニホンザルの保全に関する調査(V 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

今井, 一郎

---

CITATION:

今井, 一郎. 計画10-5 白神山地暗門川流域のニホンザルの保全に関する調査(V 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 2000, 30: 116-116

ISSUE DATE:

2000-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165366>

RIGHT:

#### 計画10-5

白神山地暗門川流域のニホンザルの

保全に関する調査

今井一郎（弘前大・人文）

本研究は、白神山地とその周辺域に生息する動植物の生態管理方式のモデル作りを目指して行なわれた。近年白神山地周辺域に頻繁に出没するようになった野生ニホンザル群を対象に調査し資料を得た。調査の概要は以下の通りである。

まず、白神山地の周囲に展開するいくつかの町村（西目屋村、鯉ヶ沢町、岩崎村、八森町）において、自治体の担当者と地域住民から猿害について聞き込み調査を行なった。次に、西目屋村・美山湖とその周辺の水田、果樹園と畑の周辺に生息するニホンザル群の生態、生息環境について、地域住民から聞き込み調査を行なった。また、ニホンザルの群れが採食地として頻繁に利用している西目屋村・田代集落周辺の畑地で糞を30個採集し、その内容を分析中である。

今後は、採集した糞内容を分析するとともに、その他の調査で得た資料を分析し、白神山地周辺の野生ニホンザルが農林業経営、観光業と住民生活などに与える影響を具体的に明らかにし、考察を進める。

#### 計画10-6

京都府綴喜郡宇治田原町に生息する

野生ニホンザルの生態

高木理代・西邨顕達（同志社大・工・数理環境）

ニホンザルの群れが、かつていなかった地域に比較的最近になって出てくるようになり、それに伴って“猿害”が発生するという現象が多発している。京都府南部の宇治田原町でも1960年代末～70年代初めに群れが出始め、70年代末から農作物への被害がひどくなった。

1982年以後何名かの研究者が猿害を生じさせている群れの生態を調べてきたが、いずれも聞き込みまたは短期間の目撃に終わっている。本研究では、これまで行われた調査を発展させるため、長期的な調査を行い（1998年5月から99年11月）、以下のような結果を得た。

1) 宇治田原町に出現するのは殆どの場合同じ一つの群れで、20数頭で構成され、7.6 km<sup>2</sup>の遊動域を持つ。

2) ある地区内で何日間か遊動し、ある日、他の地区に移動してまたしばらくそこに留まる遊動パターンが多い。

3) 一年を通じて多種の作物を食べるが、量的に最も多いのは、タケノコ、カキ、およびクリであった。これら3種類はいずれもかつては重要な換金作物であったが、現在はそうでなくなり、世話もあまりなされずに放置されていることが多い。